令和6年6月2日（日）陸奥新報(3面)

1200人データ測定

20年目「岩木健診」始まる

弘前

弘前大学が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」が今年で20年目を迎えた。弘前市岩木地区限定から市全体へ対象を拡大した今年度の健診が1日、岩木文化センターあそべーるを主会場に始まり、参加者が約3000項目にも及ぶ健康データを測定した。10日までの期間中、市民約1200人が参加する。

今年度は舌から健康状態や心身状況を調べる資生堂、運転時の注意力や予測判断力を測る初参画のマツダといった大手企業を含む55のブースが設けられた。

初日は109人が受診。新たに調査項目に加わったNECの「歩行パラメーター」のブースでは、生活習慣病予防につながるとされる歩き方の特徴を計測するインソールを装着した靴を履いて歩行状態を測定し、グリコの「社会的感受性」では目元の写真からその人の感情を読み取る力を測った。

家族の勧めで初めて受けたという主婦の佐々木久美さん(47)は「こんなに多くの調査項目があるとは思わなかった。データがどのように活用されていくのかがとても興味深い。自分の体のことを知るためにも定期的に受けていきたい」と話した。

プロジェクトの立ち上げから携わる弘前大の中路重之特別顧問は20年目を迎えたことについて「感慨深い。岩木地区の住民をはじめ、市、参画する他大学や企業の協力のたまもの」と感謝。「岩木健診の健康ビッグデータが起点となって、健康都市弘前、短命返上の活動につながっている」とし、「さらに市民に広めるとともに、多面的な展開で、弘前を世界の健康づくりの拠点にしていきたい」と今後の展望を語った。

（稲葉智絵）

舌を撮影して健康状態などを調べる資生堂のブース